

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

周りに流されず決断する(「胆識」を身につける) 淡輪 敏 (三井化学会長)

1. 経営者にとって最も悩ましいのが、事業撤退や拠点閉鎖といった、やめる・止める判断を迫られる場面ではないでしょうか。数年前、海外のとある生産拠点を存続させるべきかどうかが経営会議の議題になった時のことです。確かに業績だけで見れば閉鎖はやむなしという状態で、関係者のほぼ全員がすぐにでも撤退すべきだとの意見で一致していました。結局、腹をくくって決めたのは、その工場を残すということでした。
2. 人間は誰しも、周りの意見や表向きの情報に流されやすいものです。このときも、私が常に意識していたある言葉がなければ違う判断を下していたかもしれません。「胆識(たんしき)」。多くの政・財界人の師となった陽明学者、安岡正篤の言葉です。学問などで得られる「知識」に経験が加わると「見識」に、そこに判断力・実行力が伴うことで初めて「胆識」となる。
3. 自由闊達で風通しが良い組織でなければ、ツキは呼び込めず、優秀な人材やパートナー企業も集まってきません。投資判断などのルールを一旦決めたらあとは任せる。メッセージを伝えることは大切ですが、指示したい気持ちをこらえ、余計な口を挟まない。これも経営者の大事な仕事です。

(参考:「日経ビジネス」2021年4月26日号)

経営者のための理念・哲学

「志道に在り」

横田 南嶺(臨済宗円覚寺派管長)

1. 「禅問宝訓」にある、「唯慈明、志、道に在り」という一文に心がひかれる。多くの者は去ったけれども、慈明のみ志は道に在ったのだ。寒さなどの苦痛よりも、師の振る舞いを批判するよりも、心は求道にこそあったのだ。禅の修行といえ、人と人との切磋琢磨である。長年仕えていけば、いろんな瑕疵も目につくようになってくる。こちらの修行が進めばなおさらのことである。
2. しかし、そこで師を批判し始めたならば、成長は止まってしまうであろう。どこまでも、わが志が道にこそ在ることを確かめて、その師を通じて真実の道を求めるのだという不退転の決意こそが無くってはならないものである。

(参考:「致知」:2021年7月号)

経営者のための危機管理

自ら(小林喜光)「ヘビ」となって東電を再生できるか

1. 東京電力ホールディングスの会長に、三菱ケミカルホールディングスの小林喜光会長が就任することが決まった。東電新会長に財界の超大物が就くのは喜ばしい限りのはずだが、なぜか東電グループ内ではおびえる声があるという。小林氏はこれまで各メディアのインタビューで、世界の変化に鈍感な日本企業の姿を「ゆでカエル」と鋭く批判してきた。
2. さらに、小林氏は企業を変革するために「ゆでカエル」に外部から刺激を与える「ヘビ」の存在が必要だとも説いてきた。自社の置かれた厳しい環境に対する危機感に乏しい東電グループは、まさに「ゆでカエル」。そして会長職に外部から招かれた小林氏は、東電グループに刺激を与える「ヘビ」といえよう。小林氏は、自らが「ヘビ」となって東電グループを立て直すことができるか。いよいよ戦いは始まる。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2021年5月22日号)

古典に学ぶ

悪意競争をしてはならない

(解説) これを要するに、何業にかかわらず、自己の商売に勉強は飽くまでせねばならぬ。また注意も飽くまでせねばならぬ。進歩は飽くまでせねばならぬのであるが、それと同時に悪意競争をしてはならぬということを、強く深く心に留めて置かねばならぬのである。(参考: 渋沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)